「男女共同参画の視点に立った地域の課題解決」のためのプログラムデザイン

【事業名】　パッケージ＆スモールスタート型男女共同参画視点のまちづくり事業

【趣旨】　日々の生活の中で、「細く長く取り組める」、男女共同参画のアクションを通して、多様な人々が年齢や性別にとらわれず、個性と能力を発揮して、活躍できる機会・場所を創出し、地域の活性化や個人の自己実現ができるまちづくり

課題　地域における草の根的な男女共同参画の取組の推進

目的　地域におけるジェンダーギャップのの解消、若い世代の地元定着、将来のUターンにもつながるような、「寛容な地域」づくり、年代・性別に関わらず活躍できるまちづくり

対象　特に、地域で長老的な男性

連携先　公民館、親子向け活動、親父会、男女センター

目標	基点・基軸の形成			課題解決		振り返り
	男女共同参画推進意識の形成	現状把握	課題把握・課題共有	課題解決の方策の検討	課題解決のための行動	
内容	○地方において、地域の男女共同参画意識の形成がなぜ求めれるのか。地域社会の存続にどうつながるのか ○若い世代、特に女性が、なぜ都会に気持ちが向くのか ○関心を持ってもらうために、炎上ネタ・ニュースとその解説 ○あえて男女参画を前面に出さないほうがよい？ ○地域のために役立ちたいと考える人たちに地域課題解決の実践者になってもらう ○地域課題解決にジェンダー平等の視点を持って活動できる人を増やし、裾野を拡げる	○都道府県ごとのジェンダーギャップ統計 ○市町ごとの人口（世代）移動のデータ ○昔からの保守的な風習が根強く残っている。（個性と能力が十分に発揮できない） ○少子高齢化による担い手不足 ○女性が女性であるという理由だけで能力を発揮できないとすると、 ・人口減少の加速⇒まちの消滅 ・経済的・社会的損失 ・公正さの欠如 ○固定的役割分担意識という数値で見えにくい要因の認識	○日常に潜む固定的な性別役割分担や無意識の偏見への気付きにつながる講話及び実践 ○「この指とまれ」方式だと、本丸（本当に届けたい人たち）に届かないので、ベーシック団体からアプローチ ○意思決定の場に女性を（自治会、防災会議等） ○参加者には、自分も話したい、という思いがあるので参加型で	○男女共同参画やジェンダー単独のテーマ設定では集客が難しいので、他のイベント（親子向けなど）と一緒にできないか ☆パッケージ ○自分ごととするための小さな取組の実践（例：嫁→妻、お茶出しなくす、飲み会なくす） ☆スモールスタート ○長老方に、地域の守り人としてがんばっていただく（事業対象ではなく、主体として巻き込んでいく）。「高齢男性の居場所」問題の解消にも貢献	○公民館活動や学校行事等の中で「ちょっと」時間をいただく（ジェンダー主流化の理解をいただく必要がある） ○取組の実践を共有して、ときには励まし合うような、例えば、匿名の掲示板（リアル）を設定 ○リアルとすることで、いい意味で衆人環視が働き、否定されにくくなる。（大勢の前だと利己的なことは言いにくい、理性的な意見が通りやすい、など） ○地域の人々の目に留まることで広がりを	例えば、自治会の総会等で報告いただく。 アンケートを取る 中学、高校、市民団体の交流を通した草の根活動
方法		データのワンペーパー化	研修、講話、ディスカッション	実践内容の提案、相互に共有（コミットメント）	既存の講演等に参画 掲示板の設置	